

令和7年11月28日

(2025年)

保護者の皆さま

吹田市立佐竹台小学校

校長 山田敬司

令和7年度 全国学力・学習状況調査の分析について

本年度4月に、6年生を対象として「令和7年度全国学力・学習状況調査」を実施し、8月下旬に個人ごとの結果をお返ししました。また吹田市でも、今回実施した調査結果の概要を吹田市のホームページを通じて公表しております。

この調査は小学校の最終学年のみを対象とした調査であり、教科も国語・算数・理科に限られ、測定されたものは学力の一部であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。そのことをまず踏まえつつ、調査によって得られた課題を明らかにし、その改善に全力を注ぐことが、調査本来のねらいであると考えています。

対象となった6年生には、よりきめ細やかな指導ができるよう取り組みを進めるとともに、学校全体として課題に応じた学力向上につながる具体的な指導法の工夫改善も図ってまいります。各ご家庭におかれましても、以下の分析結果をもとに、今後の家庭学習の指針として、参考にさせていただきますようお願いいたします。

1. 調査内容

- ◆教科に関する調査 国語・算数・理科に関する調査
- ◆児童質問紙調査 生活習慣や学習環境・学習方法等に関する調査

2. 調査結果の概要と課題

- ◆調査結果の概要
 - 国語 全国値を上回っている
 - 算数 全国値を上回っている
 - 理科 全国値を上回っている

- ◆正答率の低い問題から見える課題について
誤答から課題を明らかにするために、正答率から課題等について取り上げました。

○できた点 ●課題となる点

教科	領域	正答率から見える課題等
国語	知識及び技能	○全ての問題で全国値を上回っている。
	思考力 判断力 表現力等	○インタビューをする問題では全ての問題で全国値を上回っている。自分が質問する意図に応じて、話の内容を捉えることができています。 ●資料をもとにして詳しく書き直す問題は全国値を下回っている。目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりすることや、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫する問題に課題がある。 ●目的に応じて、文章と図表を結び付けるなど、資料から必要な情報を見つける問題は全国値を上回っているが、正答率が低い。

教科	領域	正答率から見える課題等
算数	数と計算	●式や言葉を用いて説明することや数直線を読むことは全国値を上回っているが正答率が低い。
	図形	●五角形の面積を求めるために図形を分割し、そこから面積の求め方を説明する問題では、図から関係を考察して記述する問題に課題がある。
	変化と関係	●はかりの目盛りを読み取る問題の無回答率が高い。 ●10%増量の意味を理解し、増加後の量が増加前の量の何倍になっているかを表す問題に課題がある。
	データの活用	●目的に応じて適切なグラフを選択して出荷量の増減を判断し、その理由を言葉や数を用いて記述する問題に課題がある。

教科	領域	正答率から見える課題等
理科	知識及び技能	●ヘチマの受粉を答える問題は全国値を下回っている。 ●磁石につくもの・電気を通すものの組み合わせを選ぶ問題については全国値を上回っているが、正答率が低い。
	思考力 判断力 表現力等	●レタスの種子の発芽の条件について、差異点や共通点を基に、新たな問題を見だし、表現することができるかどうかをみる問題は全国値を上回っているが、正答率が低い。

3. 教科に関する分析と今後に向けて

国語

文章を書く際に、書いて終わりにするのではなく、目的や意図、自分の考えが伝わるかどうかを考えて文章を推敲したり、友達同士で読み合ったりアドバイスを交流したりして、再度書き直す指導をする。また、説明文の学習において、どこに筆者の思いが書かれているのかを見つけ、要旨をつかむ指導や、複数の資料を関連付けて考える経験も学習の中に取り入れていく。

算数

全ての問題において全国値を上回っている。
どの項目についても全国値を上回っており、全体として良好な結果であった。
形式的な方法を理解させるだけでなく、「なぜそのようになるのか」を図や式を用いて説明できるよう、普段の授業から指導していく。また、自分とは異なる考えをもつ児童の意見を理解できるように、意図的にそうした場面を設定する。図形の面積の求め方を説明できるようにするためには、既習の求積可能な図形を見出す力や、面積を求めるために必要な情報を自ら選択し、筋道立てて考察する力が求められる。そのため、各学年の学習を通して、図を基に式に表したり、図と関連づけて式を解釈したりする活動を繰り返し行う。目的に応じてグラフや表を選べるようにするには、自ら問いをもち、複数のデータから適切なものを判断する経験を重ねることが必要である。また、算数科に限らず他教科でも、データの特徴や傾向を捉え、目的に合ったグラフを選び、その理由を表現する活動を意図的に行うよう指導する。

理科

学習した内容は理解できるが、定着せずに忘れてしまうのは、生きて働く知識になっていないことが原因である。知識の定着には、復習や知識を活用する課題への取り組みが必要である。目的を意識し、自然の性質や規則性を活かしたものづくりや、実験の結果を振り返って予想との関係を確認し、また新たな問題を見いだす指導をする。「なぜそうなるのか」知りたい・調べたいと思うように、興味付ける指導をする。

4. 生活習慣や学習環境に関する調査の傾向と今後に向けて

自分自身のこと	自己肯定感 自己有用感 将来の夢	<p>○「自分には良いところがある」については全国値を大きく上回っており、自己肯定感の高さが伺える。</p> <p>○「将来の夢や目標をもっていますか」については全国値を大きく上回っている。自分の将来について考え、夢や目標をもち前向きに捉えている児童が多い。</p> <p>○「先生は、あなたのよいところを認めてくれている」については全国値を上回っている。自分のよいところを認めてくれていると感じている割合が高く、引き続き教員と児童の良好な信頼関係を築いていく。</p> <p>○「人の役に立つ人間になりたい」「日々の生活に満足感を持ち生活している」「人が困っているときは、進んで助けますか」については全国値とほぼ同じ結果である。</p>
家庭生活 学校生活	生活習慣	<p>○「就寝・起床時間は決まっている」「朝食を毎日食べる」については全国値を上回っている。生活リズムができ、規則正しい生活ができている家庭が多い。</p> <p>一方で朝食を食べる習慣がない児童もいるので、朝食をとる必要性を食育等の指導を通して児童及び保護者にも発信していく。</p>
	家庭学習	<p>○「学習した内容について分かった点やよくわからなかった点を見直し次の学習につなげることができていますか」の質問は全国値を上回っている。しかし「授業で学んだことを次の学習や実生活に結びつけて考えたり活かしたりすることができていますか」の質問は全国値を下回っている。学習したことを単元のまとめやテスト後にふりかえり、自分がわかっていること、わかっていることを自覚できるような機会を設けていく。また授業では学んだことが活かせるように、身近に感じるような内容を取り入れ、実生活とのつながりを意識した授業づくりをしていく。</p> <p>○教科について「国語、算数、理科は好きですか」の質問は全国値を大きく下回っている。</p> <p>授業の内容がわかる、学習が大切だということは質問紙から全国値とほぼ同じ回答率だが、国語、算数、理科の回答率は全国値よりも上回っており、学力は高いが好きの回答率は低い。できた実感や成績に伴ってくる点があるため、学習内容に応じて、学習成果が児童にも明確に伝わるような評価方法の工夫をし、学習に前向きに取り組み、普段の生活にも生かしていけるような授業作りをしていく。</p> <p>○「読書が好き」と肯定的に回答している児童は全国値より大きく上回っている。図書の時間や読み聞かせボランティアさんに本の魅力や面白さを児童に伝えてもらうことも、興味を持つきっかけとなっている。また多くの家庭が、本を所有しているという実態がある。今後も朝の読書の時間も継続して取り組み、本に親しむ時間を設定していく。</p> <p>○「新聞を読んでいますか」については全国値とほぼ同じであり肯定的な回答が低い。新聞をとっていない家庭が増えており、テレビやICTを活用して手軽に情報を得ることができるようになったことが要因と考えられる。そこで、各教科の授業の中で、新聞記事を取り上げ内容をまとめたりすることで、社会の情報にも触れさせていく。</p>
	友達関係	<p>○「学校に行くのは楽しいですか」については全国値とほぼ同じ回答率で肯定的な意見が多かった。よりいっそう学校の魅力をはかるために、クラス・学年の集団作りの取り組みを推進していく。</p> <p>○「困りごとや不安があるときに、先生や学校にいる大人にいつでも相談できますか」については全国値を上回っている。児童が安心して</p>

		<p>相談できるように、日々の様々の対応では丁寧に話を聞き、支援をする。引き続き、デイケンや個人面談などを通して、困りごとがないか、気を配るとともに、毎日の学校生活の中でも児童の様子を注意深く観察していく。</p> <p>○「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思う」については肯定的な回答が高いが、全国値よりやや下回っている。ほとんどの児童は「いじめは、どんな理由があってもいけないこと」だと思っているが、一部の児童が「相手が悪いという理由があれば、いじめでも仕方がない」「いじめられても仕方がない」と考えている可能性がある。普段の学校生活やいじめ予防授業等を通して、事例を挙げ、「ゆるされるいじめはない」ということを、児童に考えさせる取り組みを粘り強く行う。</p>
	ICT機器	<p>○授業中での ICT 機器について、5年生までの使用頻度回数が全国値を下回っている。</p> <p>○「ICT を使用して友達と意見を共有する。協力しながら学習する。」については全国値を下回っている。</p> <p>使用頻度が全国値と比べて低いことから、ICT の強みを生かして、端末の使用機会を増やしていく。</p> <p>○「ICT を使用して情報を収集し整理する。文章やプレゼン資料を作成する。」については全国値とほぼ同じ。児童は ICT 機器の使用に大変興味を持っており、作成できる力も備わってきている。この意欲が持続できるよう授業や児童委員会での発表の機会に児童がプレゼンテーションを行う機会を設けていく。</p> <p>○「学校の授業以外に1日どれぐらいの時間 ICT 機器を学習のために使っていますか」については30分より少ない回答率が1番多い。学校以外の学習で使用する時間は全国値をかなり下回っている。学びを深め学習するための道具としての認識が持てるよう、学習内容に応じて端末を使った授業展開を意識していく。</p>
地域や社会	地域行事 地域貢献	<p>○「地域や社会をよくするために何かをしてみたいと思いますか」は肯定的な回答は全国値を下回っている。PTA や地域行事を数多く開催していただいて参加をしているが、児童が地域をよくするための意識はまだ芽生えていない。今後の地域を支える将来の担い手になることも考慮に、生活科や総合的な学習などを通して地域との関わりや結びつきについて改めて感じられるよう、取り組みを設定していく。</p>

<結果から>

結果は子どもたちの日々の生活や学習への姿勢、自己肯定感や対人関係の傾向を知る大切な機会となっています。今回の調査からは、子どもたちの成長の様子と今後の課題がより明確に見えてきました。本校では、「自分には良いところがある」「将来の夢や目標をもっている」の質問に肯定的な回答が多く、子どもたちが自分自身を前向きに捉え、未来への期待をもって生活している姿が伺えます。また「先生が自分のよいところを認めてくれている」と感じている子どもも多く、学校における信頼関係が着実に築かれていることが分かりました。これも日頃からお家庭で温かく支えていただいているおかげであり、深く感謝申し上げます。

一方で、「人と協力して学ぶ良さ」や「いじめはどんな理由でも許されない」といった項目では、全国平均を下回る結果も見られました。特に「相手に問題があれば、いじめられても仕方がない」と考える回答が一部あることは、看過できない課題です。他者を理解し、思いやる心を育てることは、これからの社会を生きる子どもたちにとって欠かせない力です。

また、地域との関わりや社会への貢献意識がやや低い傾向も示されました。子どもたちが自分の生活する地域に関心を持ち、そこに関わろうとする心を育てていくためには、家庭と学校が協力し、地域全体で子どもを見守る姿勢が必要です。

今後も、子どもたちが高い自己肯定感を保ち、人との関わりの中で思いやりを育み、社会に積極的に関わっていきけるよう、本校の教育活動へのご理解とご協力をどうぞよろしくお願いいたします。